

## CIOTS 通信 1号 評価者エラー：プロセスが高すぎ？

現在 CIOTS (Center for Innovative OT Solutions) は、3つの評価法と1つのモデルを推進しています。評価法は、AMPS (運動とプロセス技能評価, Assessment of Motor and Process Skills), スクール AMPS, ESI (社会交流評価, Evaluation of Social Interaction) で、モデルは OTIPM (作業療法介入プロセスモデル, Occupational Therapy Intervention Process Model) です。

CIOTS 通信は、この評価法とモデルを作業療法でよりよく使うために発行します。

今回の執筆者：吉川ひろみ

発行日：2014年4月5日

4月4日から6日の第3回 ESI 講習会のためにアン・フィッシャー (Anne Fisher) さんが来日しています。いろいろ気づくことがあったので、これを書くことにしました。

4月3日の夜 Friday AMPS があり、約 50名の作業療法士とフィッシャー先生 (アン) が参加しました。その中でみんなが知っていた方がいいと思ったことがあります。一つは、AMPS 採点の評価者エラーについてです。運動技能が 0 未満と低く、プロセス技能が 0.6 などカットオフからあまり離れていない場合には、評価者エラーが疑われます。こんな時は、もう一度、スコアシートを見直し、マニュアルを読んで採点を確認しましょう。

プロセスが高すぎるという評価者エラーは、とてもよく起こります。2年前の Friday AMPS で私が事例報告した時もアンに指摘されたし、1年前ソウルで韓国の OT の事例報告でもそうでした。課題遂行に必要な物を何回も落として課題遂行に受け入れがたい遅れがあった場合に 1点をつけたら、Grips などの運動技能だけでなく、Continues や Gathers などのプロセス技能にも 1点がつくはずです。また、物を落とすということだけでは AMPS 採点はできません。観察できるのは、何をしようとしていたときに、何を落としたのかということです。歯磨きペーストのふたを開けようとしてふたを落とした場合、手がすべっていたら Grips, 両手など身体の 2か所での操作中にふたが落ちたら Coordinates にも、手の中での操作でふたを開けようとしていた時に落ちたら Manipulates, 手や腕ががたがたして落ちたら Flows に採点できます。しかし、落ちた回数が多いからといって 1点になるとは限りません。回数で 2点か 1点か決まるのは Inquires です。介入が必要なほどなら 1点になります。その時には、どの技能項目についての介入なのかを判断する必要があります。判断しないと関連する運動技能すべてに 1点をつけてしまうことになり、結果として運動技能がとても低くなるのです。

運動技能が低くなってしまふ理由の一つに、評価者が心身機能中心の考えを捨てきれないということがありそうです。上肢機能に重度な障害があると Grips, Manipulates, Coordinates, Calibrates, Flows に自動的に 1点をつけてしまう人がいます。そういうこ

とにならないように、「何（どの物とどの行為）を見たか」を思い出し、マニュアルの採点例の中から似たものを探していくと、その技能項目で採点できるかがわかります。時間はかかりますが、毎回やっていると確実に速くできるようになり、AMPS 評価者としての腕が磨かれていることが実感できます。

歯磨きペーストのふたを持つ手がすべって、ふたが何回も落ちるということは、落ちた物を集めること（Gathers）にも時間がかかり、ペーストをつけるという工程が中断されること（Continues）にもなります。Paces や Handles も関係する可能性があります。

プロセス技能が高くなってしまう理由の一つに、評価者が心身機能中心の考えに縛られていることがあります。整形疾患など認知機能障害がみられないといって、4点をつけてしまう人がいるのです。特に Temporal Organization の 4 項目（Initiates, Continues, Sequences, Terminates）を高くしてしまう人がよくいます。AMPS 採点後にロジット値を見て、もう一度スコアフォームを見直すという習慣をつけましょう。評価者エラーを自分で修正していくことができます。